



日本LD学会

子どもたちの声に心を傾けて





私たちが目指すもの

私たちは、誰もが「好きなこと」や「得意なこと」と同時に、「苦手なこと」や「不得意なこと」ももっています。発達障害といわれる人たちの中には、周りに合わせて活動するのは苦手だけれど、好きなことはずっとやり続けられる人、本を読むのは苦手だけれど、お話をするのは好きな人、うっかりミスが多いけれど、周りの人を楽しませるのは得意な人などがいます。彼らのありのままの姿を周りの人がどのように受けとめ、接するかによって、彼・彼女らの「得意」や「苦手」は、より「得意」にもなりますが、より「苦手」にも変わっていってしまうのです。

発達障害のある人が困っていることは、自身の特性によるものだけでなく、周囲の理解や支援のあり方との関係によるところが大きいといわれています。また、学校生活は、その人の生き方の基盤をつくる大切な時期にもなります。子どもたちにとって、自分に合った学び方で学んだり、自分の特性を活かしたりする経験を積むことができれば、将来にわたる自信や生きる力につながるようになります。

発達障害のある子どもたちが、正しく自分のことを知り、必要な支援や配慮を求められるようになること、そして、その求められた支援や配慮が当たり前提供される社会を創っていきたいと考えています。



一般社団法人日本LD学会とは

一般社団法人日本LD学会は、LD(学習障害)・ADHD(注意欠如多動性障害)等の発達障害に関する研究・臨床・教育の進歩向上を図るとともに、LD等を有する児(者)に対する教育の質的向上と福祉の増進を図ることを目的に、1992年に設立された学術研究団体です。2009年4月1日に法人化し、「一般社団法人日本LD学会」となりました。会員は、教育、心理、医療、福祉、行政などに携わる実践家や研究者、保護者等によって構成されています。 正会員: 11,415名 / 名誉会員: 27名 / 機関会員: 46名 / 機関賛助会員: 1機関 (2024年4月1日現在)

主な事業内容



研究

LD・ADHD・ASDなど、発達障害のある人々の実態を明らかにし、自立と社会参加に必要な支援のあり方を科学的に求めていく調査・研究を行っています。



機関誌

会員の研究や実践の成果を掲載するための機関誌「LD研究」を年4回発行しています。



広報

会員がLD等に関する新しい情報を得るための会報を年4回発行しています。また、LINEやX(旧Twitter)では会員に限定せず、情報を提供しています。



災害支援

震災の被害を受けた県からの依頼により、研修会の講師を派遣しています。



子どもたちから 日本LD学会へのメッセージ

Kさん 22歳

何かを我慢することは大切だけれど、時にはその我慢が自分自身を追い詰めてしまう。辛さを感じた時にそれを表明できる場や機会が、今後さらに充実していくと良いと思う。



Iさん 22歳

「みんなと一緒にないとダメ」「学校に行かなければダメ」...このような価値観に苦しみ、学校の外に居場所を求めたことで、私は良くなりました。誰かに苦しさを聞いてもらえる、わかってもらえるだけで、生きていくことが楽しく思えるようになりました。

Nさん 16歳

小学校の頃、テストで合格点が取れるまで、受けさせられることがありました。5年生の時、通級の先生が苦しいことを分かってくれて、担任の先生と話し合ってくれたことで助かりました。



年次大会

会員が、研究・臨床・教育などの成果を発表し、新しい知識や考え方を学ぶための年次大会・研究集会を開催しています。



特別支援教育士(S.E.N.S)資格認定協会との連携

日本LD学会の正会員であることが資格認定条件の一つになっています。



研究助成

今後の学会および特別支援教育の発展に寄与することができる若手研究者の育成のため、L-プロ(LD学会プロジェクト)を立ち上げ、研究助成を行っています。

詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.jald.or.jp>



Tさん 20歳

自分を変えられたのは、英語との出会いだっただと思います。英語を通して自分の力を大人に認めてもらえるようになり、一気に生きづらさがなくなりました。このスキルを活かせば、自分は一般社会でもやっていけるかもしれないと、後々大きな自信に繋がっていきました。今は、英語以外にもいろいろなものに沢山興味を持てるようになりました。発達障害を持った方々向けの学習プログラムの充実はもっとすべき、考えるべきものだと思います。



日本LD学会から子どもたちへ

勉強がわからなくてつまらないな。授業中、ずっと座っているのつらいよ。友だちとうまくいかなくて困った困った。これらみんな私が子どものころ、感じていたことです。学校に行くのがいやだなと思ったことも何百回、何千回もあります。でも今そこそこ楽しくらせているのは好きなものや、好きなことがあったり。「大丈夫、大丈夫」って言ってくれる人がいたり。つらくて、悲しくて流した涙はあなたの中に、同じ思いをしている人を守れるハートができた証です。それはとてもかけがえのないことです。そしてあなたを守ってくれるハートをもった人もあなたの周りに必ずいます。あなたのことがとても大事だからあなたがいつでも来られるように待っています。





デザイン：サカサノカサ



一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities